



「築城410年を誇る国宝・彦根城×現代アート」、時代を超越したアート展を実現！

日本初、国宝の城を舞台にした現代アートフェス！ 「HIKONE ART CASTLE 2017（通称：HAC）」始動！

日時：2017年9月23日(土)～12月10日(日) 開催場所：国宝・彦根城および城下町

彫刻家
浅野健一

書家
前田謙利

イラストレーター、アートディレクター
MAHARO



国宝・彦根城築城410年祭推進委員会（会長：小出英樹）は、2017年に開催される「国宝・彦根城築城410年祭」の一環として、2017年9月23日(土)から12月10日(日)まで、日本で初めて国宝・彦根城を舞台に開催する現代アートフェス「HIKONE ART CASTLE 2017(通称：HAC)」を始動いたします。

1952年に国宝に指定された彦根城天守は、関ヶ原合戦の前哨戦で耐え抜いた大津城から移築されたといわれ、1607年頃に完成。政治的象徴としての外観の美しさだけでなく、城本来の機能である軍事面でも優れています。「HAC」は、姫路城・松本城・犬山城・松江城と並んで日本に5つしかない国宝の城である彦根城を舞台に、現代の彫刻家やイラストレーターなどの著名アーティストによる「城・戦国江戸期の不易流行表現」をテーマとしたアートの数々を展示。現代に生きる最先端の文化発信拠点として国宝・彦根城の新たな魅力を創出し、新しい世代への継承と発展へと繋げていくことを目的としています。

その他、2017年9月23日(土)～10月1日(日)の期間、全国の美大生を対象に参加者を公募する彦根市滞在型学生アートプログラムを実施し、制作したアート作品を城下町で展示する「HIKONE STUDENT ART EXHIBITION 2017」を開催。彦根市内の大学や商工会との連携など、地域に根ざした創造活動を実践します。彦根の長い歴史に新たな創造の息吹を吹き込むこのアートイベントにぜひご期待ください。

「国宝・彦根城築城410年祭」は、2017年3月18日(土)～12月10日(日)まで滋賀県・彦根城一帯で開催予定。今後も、魅力的な情報を次々と発信していく予定ですのでぜひご注目ください。

※内容は変更になる場合がございます。

■「HIKONE ART CASTLE 2017 天秤櫓特別展」

- ・開催期間：2017年9月23日(土)～12月10日(日)
- ・場所：彦根城 天秤櫓
- ・参加アーティスト（50音順）

浅野健一（彫刻家）、CEKAI（クリエイティブアソシエーション）、前田鎌利（書家）、MAHARO（イラストレーター）
国宝・彦根城築城410年祭のプロモーションムービーなどの制作に関わった4組のアーティストによる「城・戦国江戸期の不易流行表現」をテーマとしたアート展を開催。アーティストによる現代的センスとの融合により、今もなお現代に生きる最先端の文化発信拠点として機能させることで、国宝・彦根城の新たな魅力を創出し、新しい世代への継承と発展へと繋げていくことを目的としています。

▼参加アーティスト一部紹介

・浅野健一（アサノケンイチ）／彫刻家

2006年に愛知県立芸術大学を卒業後、仏像修復の仕事に携わりながらからくり人形を研究。日本の古典彫刻に触れる傍ら、幼少時から愛好していた漫画やゲームの影響から 古典技法で遊ぶをコンセプトに活動。現在、伝統技法と古典技法を用い新しい感性と新しいモチーフと新しいテーマで新世代の古くて新しい「神」づくりを追求している。
ある行為で別の新しいものになること、それによりパワーを得ること。「傀儡、憑衣、一体化、コスプレ、装備、変身、禊、転生」をテーマにしている。2015年円空賞最年少受賞。



AVATAR 24 [2015]

・CEKAI（セカイ）／クリエイティブアソシエーション

2013年に、クリエイター集団TYMOTE(ティモテ)代表の井口皓太を中心に設立されたクリエイティブアソシエーション。東京と京都に制作拠点を持つ。クリエイターが、社会に対して受動的ではなく能動的に活動するために立ち上げられたCEKAIの中では、フリーランスを中心とした30名を超えるクリエイターたちが、既存の所属組織や働き方に囚われることなく、各々が持つ「世界」の解像度を高め、繋げ、表現していく事をミッションとして活動中。企業の広告制作からオリジナルプロダクト開発まで実績多数だが、そのほとんどは公開されておらず、未だ多くが謎に包まれている。



・前田鎌利（マエダカマリ）／書家

1973年福井県生まれ。東京学芸大学 書道科卒業後、独立書家として歩む。
Softbank「志高く」、JAXA「このとり」、Jリーグ「絶対突破」、重要文化財旧小坂邸襖書「花鳥風月」など多数の作品を手がける一方、国宝・彦根城などでのライブパフォーマンスをはじめ、NY、台湾など国内外にて展開している。また、未来へ日本文化を継いでいく活動として全国15カ所で書道塾「継未-TUGUMI-」を主催。600名を超える生徒へ日々書を通した内観することの重要性を伝えている。



・MAHARO（マハロ）／イラストレーター、アートディレクター

2000年にイラストレーター／ペインター／アートディレクターとして活動を始める。
ミュージシャンとのコラボレーションや企業広告を中心にイベントフライヤー、CD、レコードジャケット、壁画、映像素材などでイラストを提供している。ライブペインティングではアジア圏やヨーロッパ圏をはじめ海外へも活動の場を広げている。
GROUNDRIIDIM所属。 <http://www.groundriddim.com/>



■ 演劇「井伊直虎と直政」（仮称）

- ・開催日：2017年11月4日（土）、5日（日）
- ・場所：ひこね市文化プラザ
- ・内容

戦国の乱世の中、井伊家を守り抜いた井伊直虎公と、直虎公に育てられて彦根の基礎をつくった井伊直政公の物語を、「武士の家計簿」等で著名な磯田道史氏の脚本によって描かれた演劇。

■ HIKONE STUDENT ART EXHIBITION 2017

- ・開催期間：2017年9月23日（土）～10月1日（日）
※開催終了日は変更の可能性あり
- ・開催場所：彦根城下町

全国の美大生を対象に参加者を公募する彦根市滞在型学生アートプログラムを実施し、制作したアート作品を城下町で展示する「HIKONE STUDENT ART EXHIBITION 2017」を開催。彦根市内の大学や商工会との連携など、地域に根ざした創造活動を実践します。

※開催内容の詳細については随時公開予定です。

<参考情報>

■ 「国宝・彦根城築城410年祭」とは

2017年、国宝・彦根城の天守が完成して410年を迎え、NHKでは大河ドラマ「おんな城主 直虎」を放送します。それを機に記念祭を開催し、彦根城をはじめとする彦根の町の歴史、伝統、文化等、彦根の魅力を国内外に発信します。会期は3月18日から12月10日までの268日間。2017年度の彦根城入山者数90万人を目標としています。主な内容は、重要文化財の天秤櫓や西の丸三重櫓で、江戸期の彦根城や城下町をコンピューターグラフィックスで再現する動画の上映会、戦国・江戸期をテーマとしたアート展、開国記念館や彦根城博物館での大河ドラマ展——などを開くほか、市南部でも花火と食に関するイベントなどを企画しています。

「国宝・彦根城築城410年祭」オフィシャルホームページ：<http://hikone-410th.com/>

▼ 国宝・彦根城築城410年祭PV第1弾『彦根に集え！』

URL：<https://www.youtube.com/watch?v=jagzCx8GlpY>



▼ 国宝・彦根城築城410年祭PV第2弾『Stunning aerial image of HIKONE CASTLE』

URL：<https://www.youtube.com/watch?v=eGc7ZqSDVrg>

